

三月議会一般質問

今年に入って県下の複数の自治体で土地開発公社の経理をめぐる不正な運用が行われていることが発覚し、その一つでは、町長が逮捕される

町開発公社も 情報開示の実施機関にすえよ

事態が発生しています。開発公社は、経理内容や運営に関して議会の議決を経る対象からは外れてい

ますから、事実上住民の目が届かない状態になっていきます。今回、芝和也議員はこの問題をとり上げ、川西町情報公開条例の対象に加え、情報公開の実施機関とすることを求めました。

町長は、今後は、



小学校統合に向け 新小学校・校章公募始まる

現在、川西町では平成二十一年四月一日を期日として、結崎・唐院の両小学校を統合し、町立川西小学校としてスタートする作業が進められています。

この問題で三月十八日、学校統合特別委員会が開かれました。すでに、十九年中より、学校統合特別委員会が二回開催され、両小学校の統合については町当局より、唐院小学校への入学児童数が今後、一ケタ台しか見込めないことから、複式学級を避けるために、両小学校の統合を行う旨の説

開かれ、新小学校名を川西小学校とし、校章を住民および在勤者より公募することを決め、広報「川西」四月号などを通じて応募を呼びかけています。



今話題の道路特定財源川西町では

井戸橋東詰め交差点 改良など決まる

学校特別委員会では通学路の安全確保が議論になり、井戸橋東詰め交差点の信号機設置は、奈良県公安委員会の許可が得られないので、児童の横断を通行車両に知らせる電光表示板を設置する。また、同交差点の見通しが悪いので、その改善が確認されました。

川西町の道路特定財源は、十八年度決算ベースで五千三百万円。内、暫定税率分が二千三百万円で、一般財源として使われています。

特定財源存続の 意見書に反対

ところが、今後、全国に総延長二万一千キロに及ぶ高速道路や自動車専用道路などの建設に充てられるのが特定財源としての使い道で、しかも、必要な道路を見積もったものではなく、総額先に有り気で算出されているものです。

いくら、地方が大切な財源として位置付けても、半世紀以上も実施されながら、川西町の道路改良率が五十%にも達していないのは、事業費に一メートル当たり一億円もの巨費を投じるなど、採算を度外視した使い道が道路特定財源の実態で、維持しても、地方自治体の生活道路整備が進まないのは当たり前。こうした計画と仕組みは即刻中止し、地方の求めに応じて必要な財源作りを求める事こそ、本筋として、芝和也議員は道路特定財源の意見書に反対しました。